

【臨床・研究】

機能強化型在宅支援診療所における 癌緩和ケアと看取りの実際

なか 中	やま 山	なお 真	み 美 ¹⁾	すぎ 杉	うら 浦	ひろ 弘	あき 明 ¹⁾	み 美	かわ 川	たつ 達	ろう 郎 ¹⁾
とよ 豊	た 田	こう 浩	さく 作 ¹⁾	はな 花	だ 田	こずえ 梢 ¹⁾	す 須	さ 佐	たけ 建	ひさ 央 ²⁾	
えん 遠	どう 藤	まさ 正	ひろ ³⁾ 博	さ 嵯	が 峨	やま 山	あつし 敦 ³⁾	なか 中	やま 山	けん 健	たろう ⁴⁾ 太郎
ひろ 廣	せ 瀬	まさ 昌	ひろ ⁵⁾ 博								

キーワード：在宅医療，癌緩和ケア，PCA (Patient Controlled Analgesia)

要 旨

当院は2013年4月より在宅診療部を既存の診療所に併設し，在宅診療を開始した。開設当初より機能強化型在宅療養支援診療所として登録し，精力的に出雲市内で在宅診療を行っている。2015年9月までの2年半の期間で246人の患者を往診し，そのうち癌患者は59人で，そのほとんどが末期癌の状態であった。

当院在宅診療部では，疼痛をはじめ様々な随伴症状を来す癌患者が，住み慣れた自宅で家族とともに平穏な死を迎える事が出来るように在宅での癌緩和ケアを実践し，希望に応じて看取りも行っている。癌は日本人の死因第一位である。国策として，病院病床数の削減と在宅看取り率の増加を目指している中，患者の望んだ場所で最期の時間を過ごしたほうがQOL (Quality of Life) が高いことも分かっている。このような社会環境において，当院の行っている在宅癌緩和ケアおよび在宅癌患者看取りの現状を報告することは，今後の島根県における癌末期医療に資するものと考えられる。

はじめに

日本の死亡原因の第一位は悪性腫瘍であり，

1980年に脳血管障害を上まわって以降年々増加している。島根県においても癌による死亡が全死亡者数の27%を占め，死亡原因の1位となっている¹⁾。

すでに超高齢化社会にあるわが国は，国策として，病院病床数の削減と在宅看取り率の増加を目指している。そして在宅看取りの多くは，機能強化型在宅療養支援診療所（診断基準は表2に示す）

Naomi Nakayama et al.

- 1) 医療法人医純会すぎうら医院在宅診療部
 2) 須佐クリニック 3) 医療法人遠藤クリニック
 4) 島根大学医学部産婦人科学講座
 5) 同 地域医療政策学講座
 連絡先：〒693-0002 出雲市今市町北本町2-8-10
 医療法人医純会すぎうら医院在宅診療部